

# 網張ビジターセンター ニュースレター



Vol.56  
2014.9



amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori \* 網張の森の生き物たち \* amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

## “クサギカメムシ”～卵から成虫まで～

7月に入ったばかりのある日、3～4枚ほど葉っぱのついたオヤマザクラの小枝を拾いました。裏を見てみると白い小さな卵が28個くっついていました。「これはきっとカメムシがこの葉を食草にしているガかも？」と思いビジターセンターへ持ち帰り観察することにしました。拾った当初は真っ白だった卵にニコちゃんマークのような顔が浮かびあがってきました。次の日には赤と黒の縞模様がチャーミングなカメムシが誕生！孵化してしばらくの間は全員動かず円陣を組んだままじっとしていました。一度脱皮をしてからは動き回るようになり、脱皮するごとに少しずつ大きくカメムシらしくなっていました。脱皮跡はセミなどの半透明な淡い色とは異なり、真っ黒に近いため脱皮跡が散乱していると「共食い!？」と焦ることも。観察し続けること2ヶ月、最後の1匹も成虫となり森へ帰って行きました。どこかでまた会おう！

What is  
“Kusagikamemushi” ?

「知名度No.1?のカメムシ」

カメムシ科  
全長：約1.3～1.8mm  
分布：日本全土

全身暗褐色の典型的なカメムシの形で比較的大きい。成虫で越冬し遮蔽された朽木のひびの間などに入るため、人家に入り込んでしまうものもいる。「カメムシと言えば」…思い浮かぶナンバーワン？

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomori



キャンプ場を過ぎるといよいよ深い森の中。散策路は丸太の階段を下り、小さな沢に架かった橋を渡ります。時々、タゴガエルの大きな声が響いている所です。湿った沢沿いの辺りにはホオノキが林立しています。

# 網張の森 セルフガイド



**ホオノキ** もくれん科の高木で、高さ20m位になるものもあります。ほぼ全国の山地に生え、葉はホオノキ味噌やホオノキ焼きなどの料理に使われます。昔は、この大きな葉に食べ物を盛って皿代わりにしたり、包んだりしたことから付いた名前です。長野の豆腐屋さんでは、容器を持ってこないお客さんに、葉を十字にして豆腐を包んで渡したそうです。

材は滑らかでくろいが少なく、木工細工や版木などにも使われます。中高年の皆さんは小学校の頃の図工の時間を思い出すかもしれませんね。

花は白く直径15cmもあり、中心部に雄しべ雌しべが集まり、よい香りがします。実はドリアンのような形の中に赤い種子がたくさん入っており、熟すと顔を出します。



## 葉が重ならない工夫

庭に植えたヤツデの葉をよーく見ると、茎の長さを違えて葉が重ならないようにしていますね。林の木々も大きな葉は枝がまばらに、小さな葉は枝が密になっていて、光を受けやすい工夫をしています。



柔らかく加工しやすいので、しゃもじも作られます。栗石町の特産品の一つです。



地衣類が付くとブナの肌そっくりになり、なかなか見分けが付きません。

## 自然のたから箱

キッズスペースを開設

展示コーナー紹介 その⑧



網張ビジターセンターでは、従来の観察コーナーをリニューアルして自然キッズスペースとしてオープンしました。昆虫や小動物の飼育や標本観察などを始め、季節の自然の数々を、見て・さわって・楽しみながら学習することができます。大人も十分楽しむ事ができます。

### 折り紙コーナー



夏休み後半からは、創作昆虫と折り紙が新しく加わりました。創作昆虫は岩手県立大学4年の小野順也さんのアイデアです。

また、折り紙は、たかが折り紙とあなどってははいけません。色々な動物や昆虫を折るのですが、大人もギブアップしている姿も見られ、なかなかのものです。挑戦してみてください。



### 創作昆虫コーナー

昆虫の頭や体、翅や脚が一つひとつバラバラになる模型を複数使って、自分だけの昆虫を作ります。各パーツを通して昆虫の体の仕組みが分かります。



## ありがとうございます！開館以来の来館者が20万人に！！

突然、その瞬間は、やってきました。私たちは毎日業務の最後に、その日の来館者数を記帳していますが、8月に入って網張ビジターセンター開館以来の来館者数は、すでに19万9千人を超えていました。網張では、来館者一人一人をスタッフがお迎えする気持ちで声をかけ確認して手押しのカウンターで数を記録していきます。夏休み親子行事やキャンプ場対応に追われていた8月9日の午前11時過ぎ、199,999人目の後に入ってきたのは笑顔の素敵な神奈川県と栃木県からの若いカップル。

夏休みに二人で東北旅行を計画、岩手に入って最初に偶然立ち寄ったのが、網張ビジターセンター。スタッフの拍手と手作りの横断幕に迎えられ、当惑気味のお二人に事情を話し、20万人目の認定証と記念品をお渡ししました。「ビジターセンターに入ったら木の香りがして、ものすごくきれいなのでびっくりしました」「山や自然に関する図書が豊富なので、今度来たら時間を忘れて読んでいたい」との感想を残し次の目的地、八幡平へ旅立って行きました。これからも日本各地からビジターセンターを訪れる人々にとって素敵な自然との出会いの場になるようにがんばっていこうと改めて感じた日でした。



## \* 関西の大学生たちが感じた網張の自然とは・・・

- 毎年、夏休みに入ると関西学院大学総合政策学部の学生さんが網張ビジターセンターに寝泊まりしながら国立公園の様々な課題にチャレンジするインターン研修に参加します。

今年の8月の網張は曇雨天率83%という、ほとんど太陽が顔を出さないという気象条件でしたが、参加した大槻佳弘君（京都出身）、小野麻里子さん（大阪出身）、石野和佳奈さん（兵庫出身）の3名にとっては貴重な経験だったようです。



### 1日目・・・遠路はるばる網張に到着。ビジターセンターや休暇村の施設見学、これからお世話になる人たちへの、あいさつ回り・・・

「あいさつに行った人たち、みなさんが笑顔で返してくれたのが印象的でした。天気は残念ながら雨だったので晴れて、網張の絶景を早く見たいです」

### 2日目・・・午前中はビジターセンター館内と周囲のクリーン作戦。午後から林間キャンプ場でネイチャーゲームに初挑戦・・・

「ネイチャーゲームは初体験だったけど、地元にいるときは使うことの無い五感を意識する内容がおもしろかったです。普段さわがしいところで生活していて風の音、せせらぎ、虫たちの声しか聞こえない環境がとても落ち着きました」

### 3日目・・・初めて岩手の山に挑んだ若者達を姥倉山は濃霧と激しい雨と体ごと吹き飛ばしそうな強風で歓迎・・・



「山道にいろんな動物がいて岩手の自然の豊かさを感じました。また木が雪の影響により形を変えていることに感動しました」「初めて登山をして想像以上に過酷でした。滑りに滑ってこけたので最後の方は笑えました・・・初めてあんなに美味しい水を飲みました（注：犬倉山鞍部の湧水）」

### 4日目・・・奥産道周辺で環境省の指導による特定外来植物「オオハンゴンソウ」の駆除活動に参加。午後は木の枝や実を使って館内展示用のクラフトづくり・・・

「外来種駆除をする必要があるのか？という思いがありました。きのこ、魚、とり、すべて生きているという大堀さんの言葉が残っていたからです。外来種も生きているのに・・・と思っていました。でも小笠原さんの話の中にここでしか育たない植物があると聞いたので駆除の必要性を感じた」

### 5日目・・・本日も朝から雨、自然観察の学習も兼ねたスケッチ実習、午後は副支配人から休暇村に関する特別講義・・・

「スケッチは、こんなに集中したのは何年ぶりかと思うほど集中しました」「休憩時には震災の時のお話など、関西にいいたら聞けないその時のことを聞くことができてよかったです」

### 6日目・・・「若者が良好な自然環境を守っていくことに気づく、あるいは活動に参加するためのプログラムづくり」をテーマにワークショップ作業に集中・・・

「クラフトの配置では、みんなの作品にあう場所に置くことができ、いい雰囲気を作り出すことができて大変良かった。ワークショップでは、みんなの切り口が違い、いい刺激になりました」

### 7日目・・・最終日。楽しみにしていた早朝自然観察会の後、帰途へ・・・一週間お疲れ様、いつか、また訪ねておいでね

関西学院大学 総合政策学部  
2014.8.17(日)～23(土)





## 山で会いたくないもの

雨の日や利用者の少ない登山道の巡視では、野生動物もつい警戒心が緩んでしまうのか、鉢合わせということが意外にあります。

そんな時、動物の方があわてて道を譲ってくれるのが常で、こちらも「すいません」って、心で思いながら通過するのですが、こいつだけは苦手です。大きく揺れる笹藪、緊張が走ります。

クマ除けスプレーのピンを外し、左手で構えながら、ゆっくりとあわてず通過します。

気がつくと右手にはナタも握っていますが、これで応戦、出来るはずありませんよね。

(編集部注)・・筆者の小笠原レンジャーは今年、パトロール中に松川、三ツ石と立て続けにツキノワグマに遭遇したそうです。



## 佐和子先生の森と友達

松木 佐和子

9月初旬、ほんの短い期間ではあるがドイツの森を歩いて来た。南ドイツのバーデン・ヴュルテンベルク州にあるロットンブルク林業大学で行われた学生実習に参加するためだ。2012年にも北欧を初めとしたヨーロッパの森を訪ねたことはあったが、日本の林業に最も影響を与えたドイツ林業の本拠地で、エキスパートにお話を伺いながら森を歩けたことは大変貴重な体験であった。



南ドイツに生育している植物は、属レベルでは日本の東北・北海道とほとんど変わらない。しかし氷河期時代の氷床の影響を色濃く受けているため種数は日本の半分以上で、特にササや低木類など林床を覆う植物が少ない。更に多くの森では傾斜が緩く、日本の森と最も大きく違うのは「見通しが良く歩きやすい森」であること。見通しが良く歩きやすいことで何が違って来るのか？ 3つ大きな違いがあると実感した。

1つは、ドイツ的林業は天然更新が主流で地拵えや下刈りがほとんどの場所で必要無い。針葉樹の森（優占種はドイツトウヒ）でさえ、林床には次世代を担う針葉樹が林床を埋め尽くしている。広葉樹（優占種はヨーロッパナ）でも動物による食害さえ防げば小さなギャップでも天然更新が可能である。2つ目は、林業と狩猟が非常に密接な関係にあること。森林を管理する立場の役職では、狩猟免許の取得が必要となるため、ロットンブルク林業大学の林業コースの学生は全員が狩猟実習を受ける。森の中は非常に見晴らしが良く、林道に設置された物見小屋から遠くの獲物（多くはシカ類やイノシシ）を仕留めることができる。3つ目はレクリエーションとしての利用である。ドイツの森では、所有形態を問わずに散策やキノコ狩り、ベリー摘みを楽しむことができる。林道脇にはベビーカーを押しながら歩く家族やサイクリングをする老人達の姿も見られた。

個人的には、起伏があって小川が流れていたり、様々な林床植物が見られる日本の森の方が変化に富んでいて楽しいと思うが、林内を歩いている時の快適さは比べものにならない。

上記に挙げた3つの要素によって、林業だけでなく自然に対する向き合い方もドイツと日本では大きく異なると感じた。

ドイツが目指している合理的で持続可能性の高い林業から学ぶべき事は多い。しかし日本にそのまま当てはめることはできない。その上で、もっと日本の森や林業について考えを深めなければと気持ちを新たにしたい実習であった。



(岩手大学 農学部 共生環境課程 講師)



・・・網張ビジターセンターを訪れる方の動機は実に様々です。私たちスタッフに「鳥おじさん」の愛称で呼ばれている鈴木充さんの「動機」はさしずめ、スタッフを煙に巻くこと?? 時折、ビジターセンターのインフォメーションカウンターに顔を出し、自分で撮った野鳥の写真を見せては「さあ、この鳥はなんでしょう?」とそれほど野鳥に精通しているわけではない私たちスタッフを悩ませます。それも遠距離からのシルエットや幼鳥の姿といった難問が多いのが特徴です。「なぜ野鳥の写真を撮るのですか?」と問いには「そこに鳥がいるから撮るのだ」とエベレストに挑んだG. マロリーばりの答えが返ってきます。別の時には「獲物をねらうハンターのような緊張感がたまらない」とも。最近では網張周辺に生育するセリ科植物が「シシウド」か「アマニュウ」か「エソノヨロイグサ」かについて半年にも及び論争をスタッフと続けたこともあります。「私は理念とか主義主張で生きているのではなく、ただ気のおもむくまま自然に接し、興味がわくから撮るのだ」というのが持論。最初に網張ビジターセンターに来るようにきっかけは? 「たまたま見ていたテレビ番組で、網張の森の自然散策を紹介していて、キビタキの囁りが聞けるというので来てみたら本当にキビタキに会えた。それから、なんとなく立ち寄るようになってしまった」ビジターセンターでお気に入りのものは? 「ビジターセンタースタッフとの会話と岩手山のコマクサの解説かな」・・・私たちにとても大いに脳細胞を活性化させてくれるビジターの一人です。



おかげさまで今年度、満10年目を迎えます

## 網張ビジターセンター開設ものがたり

### 第三話 ・・・網張ビジターセンターではどんな工夫が・・・ 千村 勝哉 (元網張ビジターセンター主任解説員)

八幡平地域のビジターセンターは6箇所ほどありますが、それぞれ利用対象地やテーマを異にしています。網張ビジターセンターの場合は岩手山をテーマとし、その自然や歴史、民俗等について様々な手法を用いて紹介しています。昭和30年～40年代の初期のビジターセンターは、建物も展示方法も単調で素朴なものでした。その後の技術の進歩はめざましく、近年は環境省でも詳細な技術指針を設け、建物や展示方法の施工技術においても飛躍的に進歩したものに様変わりしました。網張ビジターセンターではどんな工夫が施されたのでしょうか。建物でみていきますと、風景調和型デザイン、融雪型屋根、大型ガラス壁面による自然採光、太陽光発電装置の付設、民家風の室内デザイン、派生材の再生集成材の活用、高耐久性カバザクラ材の床材適用、ユニバーサルデザインへの配慮、開放的でフレンドリーなカウンター、隣接する既存の多目的棟との連携活用化など、景観や省エネ対策、快適性等への配慮、また展示関係では、最新知見に基づくビジュアルな解説パネル、地球観測衛星ランドサットからの解析映像を利用した十和田八幡平国立公園全域の地形をあらゆる角度から視覚できるようにしたディスプレイ、岩手山の複雑な火山地形を鳥瞰視できる模型、岩手山山頂からの壁面大のパノラマ写真、高山植物のレプリカや溶岩、樹木の葉の標本を封入した永久保存型の合成樹脂ブロック、周辺43地点から撮影された岩手山のスライドショー、石川啄木や宮沢賢治が岩手山を詠った音声ガイドなど、リアル感を追求して分かりやすくするための最新技術を駆使した画期的な方法が数多く採り入れられました。特にランドサットからの解析映像活用ディスプレイは全国のビジターセンターでも初めてのもので、岩手山山頂からのパノラマ大写真は特殊カメラを用いて4、5日間も粘って得られた超高解像度のものであり、また、レプリカ等の封入合成樹脂ブロック展示は特殊技術による半永久的保存が可能というものでした。それだけに訪館者の間でも大好評を博してきました。このようなリアル感あふれる魅力的なビジターセンターは半世紀ほど前の初期ビジターセンターに比べれば別世界のようです。これにはビジターセンター自体の進歩もありますが、社会全体で培われ発展してきた理念、知見、技術等の総合力の反映によるものが大きいと思われます。つきつめれば、各ステージ、各分野で携わる実に多岐にわたる個人個人の気鋭、努力の社会的積み重ねに負う結晶といってもよいでしょう。ビジターセンターはその時代の発展性が反映され見事に昇華されたものの一つともいえそうです。良かれと種々の工夫が施されたビジターセンターでも実際に運用して見ますと、長所が長所だけで済むとは限らず裏返しのように思いもよらない欠点となる場合、部分もあります。例えば、屋根融雪の一部氷塊化、大型ガラス壁面から入る太陽光線の影響、室内寒気の吹き降ろし、高度機種不調時の難解さ、完成度の高さからくるハンズ・オンの窮屈さや各種スペースの不足等。しかし、これらへの逐一の対処、対応結果は、できないことも含めて社会的に還元されることで次世代のビジターセンターや社会の総合力の進展へ貢献できるものでもあろうかと思われま。こうしたことなどで、あるいは、検証や見直しと言った意味でも長短過ぎない網張ビジターセンター開館10周年がさらに昇華されていけばよいと思います。(前号本欄の下から3行目の「・・・生命観にあふれ・・・」は、「・・・生命感にあふれ・・・」に訂正させていただきますので、よろしくご了解のほどお願い申し上げます。)



**7月27日(日) 「三ツ石山の花紀行」**

◆一般申込20名 ※悪天候のため中止

**8月2日(土) 「網張の森で昆虫みつけ(観察と写真撮影)」** ◆参加者10名

眩しい太陽のもと、三井講師から昆虫撮影のアドバイスをいただきながら、活発に動き回るヒョウモンチョウやフキバッタなどの撮影にチャレンジしました。



**8月9日(土) 「網張の森コウモリナイト」**

◆参加者3名 コウモリの保護を考える会等スタッフ10名  
館内でコウモリの生態などについてレクチャーいただき、外では小雨模様の中、バットディテクターを通してコウモリがエサを捕らえる様子を聞くことができました。



**8月20日(水) 「外来植物駆除大作戦！」**

◆一般参加者5名 各関係機関の方々も含めると総勢50名ほどで奥産道沿いのオオハンゴンソウ(軽トラック約1台分)を一斉に駆除しました。

**\*インフォメーションコーナー** 詳しいお問い合わせは網張ビジターセンターまで

**文学散歩「賢治が愛した七ツ森の魅力」**(雫石町と共催)

**10月12日(日)**

宮沢賢治とゆかりの深い七ツ森を散策しよう!

講師: 関 敬一氏 生森山登山口集合(雫石町)  
9:30~14:30 定員20名  
参加費: 大人500円 小学生300円



**「紅葉の鞍掛山・スケッチしながら自然観察」**

(滝沢市と共催)

**10月26日(日)**

紅葉や黄葉で秋色に染まった鞍掛山を登りながらスケッチを楽しみます。

講師: 広野 孝男氏 相の沢登山口集合  
9:30~14:30 定員10名  
参加費: 大人500円 小学生300円



**「親子で楽しむクラフト教室」**(網張の森の自然素材再発見)

**11月2日(日)**

網張の森を散策しながら落ち葉や木の実などを集めてオリジナルのクラフトを作成!

網張ビジターセンター集合  
9:30~12:30 定員10名  
参加費: 大人500円 小学生300円  
(材料費込)



● 網張ビジターセンター企画展 ● 一工藤 義之 水彩画展一 現在展示コーナーにて開催中!

**「三ツ石山の風景と山の花」**

それぞれ趣の違う登山コースが3コースあり、眺望も季節によって風景がそれぞれ素晴らしく、登山時間もせいぜい往復時間から時間程度で、登山道もあまりきつく無く、昼食を三ツ石山荘のテラスでのんびり食べて、見知らぬ登山者と会話する、そして登山の後は網張温泉で体を休める。そんな、一年に2,3回は登山をしている私の好きな山、三ツ石山を水彩画で描いてみました。山の野草も背景に色彩を施す事により、雰囲気の変った野草図にしてみました。



「三ツ石山荘」



「ヨツバシオガマ」

**モモンガのつぶやき**

雨の日ばかりが目立ち、まるで夏が無かったのではないかとと思われるような網張。もう紅葉の時期を迎えている。そんな夏だったが、夏休みには子供たちの歓声が響き渡り、キッズコーナーも大いに賑わった。そして豆台風が過ぎ去ったかのように、その後に残されたものは、出しっぱなしの道具や紙、えんぴつ、そして使ったティッシュまで。

親がいてもいなくても同じような「現場」。聞けばよそも同じような状況だとか。モモンガ のボヤキ?  
(森ピー)

**十和田八幡平国立公園 網張ビジターセンター**

来館者数 ◆ 7月 2,545人 ◆ 8月 3,201人  
朝9時のビジターセンター平均気温 7月 16.7℃ 8月 16.7℃

**「今年度ビジターセンター開設10周年を迎えます!!」**

発行 網張ビジターセンター運営協議会

〒020-0585 岩手県岩手郡雫石町長山小松倉 1-2 (網張温泉)

TEL 019-693-3777 FAX 019-693-3778

URL <http://www17.ocn.ne.jp/~amihari/>

E-mail: [amihari@vanilla.ocn.ne.jp](mailto:amihari@vanilla.ocn.ne.jp)

開館 4月~10月(休館日なし) 9時~17時